

ときには「アンダンテ」のごとく

校長 片山 亮一

春の暖かさが日増しに感じられるようになりました。
穏やかな陽光を浴びながら家の周りをゆっくり歩いていると、春の息吹とともに雄山中学校のこの一年の心地よい瞬間が様々に浮かんできます。

先日、心温まる映画に出会いました。その題名は『アンダンテ～稲の旋律～』です。
ピアノを習ったことのある方や音楽に詳しい方には、きっと音楽用語「*Andante* ～ 歩くような速さで、ゆるやかに」が思い起こされると思います。

私がこの映画に出会ったのは、映画館の真っ暗な空間でもなく、DVDを自由に楽しめる自宅でもありません。県生涯学習カレッジが富山駅前CiCビルで開催する「わくわく土曜シアター」に初めて出かけた時のことです。明るい研修室の大型ディスプレイによる視聴には違和感がありましたが、画面に釘付けになり涙を流すなど、参加者の様々な反応が間近で感じられ、趣の異なった「感動の共有」に不思議な魅力を感じました。

主人公「千華」は都会に住む対人恐怖症でひきこもりの30歳。母親の強い希望で幼い頃からピアノの道を歩むが、その期待と一方的な愛情に應えることだけに必死だった千華にとって音楽社会の競争は厳しく、千華は次第に自信を失くし、せつかく入学した大学も中退を余儀なくされる。その後はアルバイト生活に入るものの、職場の人間関係に自信がもてず家に閉じこもるようになり、両親との「いさかい」も絶えない。そんな両親から逃れようと一人電車で乗り田園地帯に向かった千華が「誰か私を助けて！」の手紙をペットボトルに入れ、立ち寄った田んぼに置いてくる。それを自然農業に打ち込む中年男性が拾ったことがきっかけで2人の交流が始まり、千華の一段と高い「人間性回復への物語」がスタートする。

5月の田植えから9月中旬の稲刈りまでの「稲の成長」と千華の変容とを重ねながら、この映画は見事に描かれていきます。田園地帯を走り抜ける電車や古びた駅舎のイメージが「立山線」とも重なり、親近感を覚えた私はその後の展開に引き込まれていきました。

私には3人の子どもがいます。その3人に過剰な期待をかけた記憶はありませんが、この千華の「心の叫び」に、私は自らの子育てや教え子たちへの関わりを振り返らずにはいられませんでした。千華の人間性を十分に認めつつ、農業体験を通してゆっくりと背中を押す農家の人々のような「人間的な関わり」が自分にはできていたのだろうかと思いかけてもしました。

さて、明日、3月14日は本校の第72回卒業式です。

9年間の義務教育を終えて子どもたちが樂立つ中学校の卒業式は『親子』のためにあるのです！

職員会議で私が教職員に伝えた言葉です。このことから、保護者席を体育館の中央に変更するなど、いくつかの工夫と改善を加えながら卒業式の準備を進めてきました。

ぜひ、保護者の皆様には、胸を張って卒業するお子様の姿を間近で目にし、その確かな成長と未来への決意をしっかりと受け止めていただきたいと思います。

この卒業式が「親子の絆」を確かめ合う、新たに見つめ直す貴重な機会となりますことを切に願っております。

この伝統ある雄山中学校を「明るい学校 楽しい学校 美しい学校」にしようと努力を様々に重ね、「ゆるぎない安心感」を与えてくれた3年生243名。

卒業の日が近づくとつれ、雄山中学校が立山町にただ一つの中学校であることの自負や、エアコンやICT機器の完備、放課後学習教室や土曜学習教室といった他市町村にない「学びの支援」への感謝など、3年生の生徒たちはその気持ちをより強くしているものと思います。

技術革新が進み、様々なものにスピードが求められ、権利意識が優先される困難な時代ですが、ときには「アンダンテ」のごとく、自分らしさを保ちながらゆっくりと歩むことも大切です。

本校での経験や体感によって得られた多くの学びを糧に、自分を見失わず、たくましく生き抜いてほしいと思います。

地域並びに保護者の皆様、本当にありがとうございました。卒業生を、そして雄山中学校をこれからもよろしく願いいたします。



3、4月の主な予定



3月13日(水) 卒業式予行 同窓会入会式
3月14日(木) 第72回卒業式
3月18日(月) 県立高校合格発表
3月20日(水) 給食最終日
3月21日(木) 春分の日

3月22日(金) 修了式 離任式
3月23日(土) 学年末休業(～4月3日)
4月4日(木) 始業式 新学級発表
4月5日(金) 給食開始 入学式準備
4月8日(月) 入学式

卒業を祝う会 3月11日

1、2年生が2月25日から「卒業を祝う週間」を設け、3年生の教室前廊下の飾り付けやメッセージの掲示等で、3年生への感謝の気持ちを伝えました。

また、「卒業を祝う会」では、3年生が1、2年生の工夫を凝らした寸劇やクイズに明るく応じ、学年合唱にも大きな拍手を送るなど、在校生の「おもてなし」を心から楽しみました。3年間の数々の写真や恩師からの心温まるメッセージに大きな感動を得た3年生からは、お礼の気持ちを込めて1、2年生に混声合唱『あなたへ』が贈られ、「雄中生の絆」を確かめ合いました。



飾り付けに集中する1年生



2年生のユーモアあふれる寸劇



安定感のある見事な3年合唱

卒業式に向けて合唱練習 3月1日～3月13日

卒業式に向け、合唱練習を生徒の手で進めました。全校合唱『大地讃頌』ではパートごとに分かれ、3年生のリーダーが中心となって細やかな指導をしました。在校生の合唱『この地球のどこかで』は「ぜひ3年生の思い出に残る卒業式に！」という願いを大切にしながら、どの生徒もその強い気持ちを歌声に乗せています。卒業式当日は、全校が心をついに、体育館いっぱいに豊かな合唱を響かせてくれるものと思います。



合唱練習を大切にしている生徒たち

みんなで環境整備

「1年間ありがとう」の気持ちを込めて、教室の清掃やワックス掛けを丁寧に行い、机やいすの脚を保護する布を巻きました。短い時間でしたが、新年度を新たな気持ちで迎えられようと、学年ごとに手分けをして真剣に作業を進めました。4月には、次の学年の生徒が大切に使うことを願っています。



感謝を込めて床を磨きあげる生徒

3年間で振り返って ～3年生の作文から～

- 部活動でコミュニケーションの必要性を学びました。団体競技なので、先生や先輩、後輩、同級生など、たくさんの仲間と関わりをもち、話し合っ決めてたり同じ目標をもって高め合ったりすることが大切であることに気付かされました。(3年男子)
- 3年間、係や委員会の仕事を最後までやり切りました。様々な場面で多くの人々に支えられながら学校生活を送り、目標をしっかりと達成することができたと思います。雄山中学校で支えてもらったり助けてもらったりしたときの「うれしさ」を忘れずに、自分も多くの仲間を支え、助けていきたいと思っています。(3年女子)

卒業期の受賞 ～それぞれの立場で活躍・貢献しました～

富山県中学校体育連盟スポーツ表彰	小柴 大世 (3年7組) 寺松 歩穂 (3年5組)	
富山県中学校文化連盟文化表彰	清水 結子 (3年6組) 井上 聖菜 (3年1組)	
富山県をよくする会 個人表彰	村田 昭人 (3年3組)	
立山町功労者表彰	(個人の部)	寺松 歩穂 (3年5組) 長屋 匡起 (2年1組)
	(団体の部)	陸上競技部 女子弓道部

